

一般社団法人 日本生態学会

平成 28 年度第 4 回通常理事会議事録

1. 日時：2017 年 2 月 18 日（土）13:00～17:00
2. 場所：早稲田大学 先端生命医科学センターTWIns 会議室
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）可知直毅、占部城太郎、岡部貴美子、石井励一郎、池田浩明、久米篤、古賀庸憲、吉田丈人、日浦勉、大澤剛士、辻和希、鈴木まほろ、宮下直、川北篤、別宮有紀子、吉田正人（全理事中 16 名参加）
（欠席理事）長谷川雅美、佐竹暁子、湯本貴和、近藤倫生
 - ・監事：陶山佳久、竹中明夫
 - ・オブザーバー：中野伸一、陀安一郎、木庭啓介、北村俊平、伊東明
 - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 16 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い可知直毅会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、可知直毅会長、陶山佳久監事、竹中明夫監事とし、議事録作成者は岡部貴美子理事が担当する。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて岡部専務理事より報告があった。会員数は前年より増加している。
2. **Ecological Research** 編集委員会報告
 - ・久米編集長より昨年は 1000 頁を切ったが、現在 3 つ特集が予定されており、今年から来年にかけては 1200～1300 頁のペースになる予定との報告があった。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・伊東編集長より資料 2 に基づいて報告があった。
4. 保全生態学研究編集委員会報告
 - ・岡部専務理事より資料 3 に基づいて報告があった。
5. 大会準備状況報告

- ・ 川北理事より資料 4 に基づいて報告があった。
 - ・ 大会非常時の意思決定プロセスについては別紙資料の案が承認された。
 - ・ 発表者で参加費未払の人は当日参加料金となることが確認された。
6. 各種委員会報告
- ・ 別宮理事より資料 5 に基づいてキャリア支援専門委員会報告があった。東京大会のキャリア支援フォーラムと企業との交流は会員へ一斉メール送信で知らせることが承認された。
7. 学術会議報告
- ・ 吉田丈人理事より学会の会員・連携会員の情報提供に基づいて候補者推薦をしたとの報告があった。
8. 大会のあり方検討部会報告
- ・ 吉田丈人理事より資料 6 に基づいて報告があった。国際文献社の大会参加申し込みと発表申し込みが独立しており、先に発表を申し込みその後参加申し込みならば重複発表の費用徴収が可能。
 - ・ 1 日参加システムよりもヘルプデスクで対応可能
 - ・ 3 月の大会フォーラムで改革案(発表者の範囲。費用は 1 件につき課金。シンポジウムは発表者全員。招待者、1 年目無料自動的に会員になる。2 年目以降会員として発表してもらう等)を会員に聞き、春以降第 2 弾のアンケートを実施する。
 - ・ 12 月の大会改革案で意見があれば吉田理事まで個別に連絡をお願いします。
9. INTECOL 報告
- ・ 中野オブザーバーより 3/7 に会議開催、前回理事会からの進展は特になし、アブストラクトは 3/1 まで延長されているので一斉メールと学会ウェブサイトに掲載の依頼があった。

審議事項

第 1 号議案 大会開催地（近畿・中部）について

- ・ 2019 年近畿地区開催地は現在検討中。2020 年中部地区開催について全会一致で承認された。
- ・ 2018 年 4 月に名古屋大学で ESFES 開催。

第 2 号議案 2016 年度決算案について

- ・ 資料 8 の決算案が全会一致で承認された。
- ・ 会員数が増え年会費収入も増えた、ER 還元金は 2015 年売上分、支出

で生態誌頁増で出版費も増、法人税は ER 還元金があったため支払いが多くなったとの報告があった。

第 3 号議案 2017 年度予算案について

- ・ 資料 9 の予算案が全会一致で承認された。
- ・ 宮地基金については 2 年後に資金切れの可能性あり。歴代会長・理事会では「賞金がなくても賞は継続するのが良い」との意見があった。また、執行部で基金への寄付を募ることを検討することになった。

第 4 号議案 役員の推薦について

- ・ 資料 10 の新理事・監事候補を総会に推薦することが全会一致で承認された。

第 5 号議案 日本生態学会大会規則改訂について

- ・ 資料 11 の大会規則改定案が全会一致で承認された。

第 6 号議案 日本生態学会入会規則改訂について

- ・ 資料 12 の改定案について審議し、ER 冊子体購読は 8000 円、送料の表記を工夫して総会（代議員会）に提案することになった。

第 7 号議案 日本生態学会就業規則改訂について

- ・ 資料 13 の改訂案に加え、23 条 1 の「女性事務員」を「事務局職員」に変更することが全会一致で承認された。

第 8 号議案 日本生態学会大島賞規則改訂について

- ・ 資料 14 の改定案が全会一致で承認された。

第 9 号議案 学会財政改革の骨子案

- ・ 資料 15 に基づいて審議した。
- ・ 有料配布は学会誌のみとの説明があった（ニュースレターは印刷物配布なし）。
- ・ 海外特別会員について低収入の国＝ワールドバンクの基準とする。また、新たな会員種別を設定することは定款の変更も必要であり慎重に検討するべきだとの意見もあり、「新設する」を「検討に着手する」と変更する。
- ・ 冊子体配布が廃止されても会員に情報が伝わるよう一斉送信メールでニュースレター・学会誌の目次を流すことが提案された。
- ・ 大会参加費で収入が増える場合、課税対象にならないかとの質問があったが、基本的に大会参加費は非課税。これまでのところ大会参加費が課税対象になった学会は聞いていないとの報告があった。

- ・ ER の冊子をなくすことでどのくらい支出が少なくなるのかを示したほうが良いとの意見があった。
- ・ 今後は、理事会での意見を踏まえた修正版を作成し、代議員会・総会に諮ることで合意した。

第 10 号議案 地区会費廃止について

- ・ 資料 16 をもとに審議し地区別に設定している地区会費を全地区 0 円とすることを各地区会に打診することが全会一致で承認された。
- ・ 還元金の額や配分ルールについては、引き続き検討することとした。
- ・ 地区会でウェブ選挙をできないかとの質問があったが、費用対効果を考えると厳しいのではとの意見があった。

第 11 号議案 日本生態学会誌編集委員承認について

- ・ 資料 3 提案の日本生態学会誌編集委員候補が全会一致で承認された。

第 12 号議案 Ecological Research 編集委員会からの承認事項

- ・ 資料 17 の ER 論文賞候補と新編集委員候補が全会一致で承認された。

第 13 号議案 「生態学の展望」(日本学術会議生態科学分科会)について

- ・ 多くの生態学会員に読んでいただきたい内容であり、伝える方法として、生態学会誌に学術情報として投稿する、ニュースレターに抄録を載せてダウンロードサイトを入れる、などいくつかのアイデアが出た。
- ・ 著作権についても検討が必要との指摘があった。
- ・ 生態学会は要望があればいろいろな方法で会員に知らせることができると踏まえつつ、今後の文書の取り扱いについては日本学術会議生態科学分科会で再検討することとなった。

第 14 号議案 賞・助成の学会推薦体制について

- ・ 資料 20 の研究助成団体等への学会推薦に関する取り決め(案)について審議し、4 行目「生態学会」を「本学会」、5 行目を「3 助成を受けた研究の成果は、生態学会の雑誌や大会で公表すること」、「副会長」を「次期会長候補」に修正することで、全会一致で承認された。

第 15 号議案 総会開催について

- ・ 2017 年 3 月 17 日大隈講堂で総会を開催することが全会一致で決議された。

※その他、学会誌発行に関する他学会との連携について意見交換を行った・

その他

- ・ オープンキャンパスを HP に載せて良いかとの質問があり、生態学を学びたい学生に有益な情報であれば依頼があれば事務局で HP に掲載してよい、判断に迷う場合は業務執行理事等に相談すればよい、という考え方で合意した。

閉会：以上の議事を終え、17時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

平成28年2月18日

会 長 ： 可知 直毅 ㊟

監 事 ： 陶山 佳久 ㊟
竹中 明夫 ㊟